

海外演習実践講座 I 報告書

GMS 学部 GM 学科 3 年

学籍番号 : GK8243

氏名 : 高田 友洋

1. 渡航先

フィリピン共和国・マニラ及びラグナ州

2. 渡航期間

2010年8月4日～18日

3. 渡航先名称・所在地

350 A. Villegas St. (formerly Arroceros St.)

Ermita, Manila, Philippines

P.O. Box 650

Telephone Number: (63-2) 527-6982 to 85; 528-0559

Fax No. 528-0558

4. 渡航先で体験した事柄

今回フィリピンにおいて経験した事柄は大きく分けて3つに分かれ、それぞれ

○ストリートチルドレンの支援プログラム

○YMCA OF MANILA (以下マニラ Y) に所属している大学生とのボランティアプログラム作成のディスカッション

○マニラ Y に所属してまだ新しい大学生のリーダーシップ養成プログラムへの参加

に分かれる。この項では上記の3つの事柄を順に説明していく。その前にマニラ Y、もと

い YMCA とはいったいどのような団体であるのかを説明する。YMCA とは、Young Men's Christian Association の略で名の通りキリスト教義に基づいた非営利団体で、世界中に組織され、125 の国・地域で活動を展開している。日本でも 30 の都道府県に 34 の都市 YMCA と 36 の大学 YMCA が組織され、明治期初期より、英語教育、野外教育、職業教育、そして、健康教育などの面で先駆的な働きをしてきており、民間の行う青少年事業、社会教育事業、社会体育事業の面で貢献している。今回はそのフィリピンの YMCA の中核でもあるマニラの YMCA の活動に参加した。

- ・ストリートチルドレンの支援プログラム

まずはストリートチルドレンの支援プログラムであるが、このプログラムはマニラ Y が提携を結んでいるマニラ市のトンド地区の路上生活者の中の子ども（ストリートチルドレン）に対し食料や日用品の付与、マニラ Y が設立した施設において英語や算数といった教育を現地で実施するといったプログラムである。私の役割は教育するスタッフの方に付いていき、食料や日用品が入った荷物の運搬の手伝い、それを子どもたちに渡す作業や下記の写真にある初等教育施設において基礎的な教育をするスタッフの方のサポートをするといった仕事まで多岐に渡った。実際に子どもたちやその家族の方に物渡す際、少しばかり話をしたが、意外と英語をしゃべれる方が多く非常に驚いた。今回渡航の当初の目的にはこのプログラムの参加への比重が大きかった。しかし滞在していたマニラの天候が渡航期間中雨季のため豪雨が集中して降った結果、実施地区が大きく冠水し、トンド地区への出入りが制限された上に衛生面での考慮の結果、このプログラムには 4 日しか参加することが出来なかった。



・YMCA に所属している学生とのボランティアプログラム作成のディスカッション

先述したとおりストリートチルドレンの支援プログラムの続行が難しくなってしまったため、マニラ Y のスタッフの方が他の活動に私を参加させてくれた。その 1 つがこの現地の大学生によるボランティアプログラムの実施であり、今回はちょうどそのボランティアプログラムを設計する期間であったので、実際にボランティアプログラムを行う大学生がどのようなプログラムを行うかを話し合っている場に出席し、現地の大学生のプログラム作成を手伝った。私が参加した時に作成していたプログラムは、参加者の住むバラングイ（日本で言う地域の自治体の最小クラスの区分）ではお年寄りが多いが日本のように社会保障が充実していない。それ故仕事を引退したら収入がなくなり、着るものが不足し、ボロきれを着ているような方もいるとのことである。こういった現状に対しマニラ Y の大学生のグループは、それぞれ通っている大学において募金活動をし、そのお金で T シャツを購入しバラングイのお年寄りに寄付をしようというものであった。話を聞いてみるとまだまだプロジェクトは設計の初期段階であり、まだ T シャツの作成を依頼する業者を決めたり募金の方法等をきめたりするという様な話し合いであった。ボランティアプログラムの作成という堅苦しい響きであるが、話し合いの風景はとても和やかであり、まるで大学のサークルを彷彿とさせるようなものであった。普段はタガログ語というフィリピンの公用語で会議をしている彼らだが、その時は私がいたからという理由から特別に英語で会議をしてくれた。そのおかげで現在の進行度を知ることが出来たし、途中タガログ語で会話をしても、隣に座っている人がその都度英語に訳してくれたので十分参加することができた。加えてフレンドリーに接してくれるし、話し合いもサークルの会議のようなものなので実際に日本に居るような感覚で気軽に発言できた。数回しか会議には参加できなかったが、話し合いがとても楽しかった。可能なら実際に彼らと一緒に募金活動に参加したかった。多分この報告書を作成している 9 月下旬頃に彼らは実際に募金活動を始めている事と思う。毒にも薬にもならないような私の発言が実際にほんの少しでも彼らの助けになっていたら私は幸せだ。



・マニラ Y に所属してまだ新しい大学生のリーダーシップ養成プログラムへの参加

この活動も現地について急きょスタッフの方のご厚意で参加させてくれた活動であり、首都マニラより車で2時間弱のところにあるラグナ州において1泊2日のリーダーシップ養成プログラムに参加させてくれた。参加者はマニラ Y に所属してまだ間もない大学生が YMCA で今後活動する上で YMCA の理念やグループを率いるためのスキルを学びに行くという目的であるが、私も参加者とまったく同じ条件で参加する事になった。加えてラグナ州へ出発する前々日に英語で日本の学生についてのプレゼンテーションを現地の大学生に向けてしてほしいという連絡を受け、宿泊地でパソコンを使いパワーポイントでスライドを作成した。そしてプログラムの当日、施設に着いた時は全く誰とも話さなかったが少し経ったら色々な人と話す事が出来た。参加者の多くは大学にある YMCA の代表としてここ参加している。そのため、自己分析ディスカッションや、グループディスカッション、グループワークといった主な作業をこなす時や皆の前に出て発表する時に同年代とは思えないぐらいにしっかりした人間性というものを垣間見た。しかし、一旦休憩時間となると先ほどとは打って変わってとても陽気でフレンドリーな一面も見ることが出来た。1日目のプログラムが終わると皆で近くのプールに行き泳いで遊んだり、ずっとお互いの事を話したりと、とてもその日に初めて出会ったとは思えないぐらいに打ちとけた。宿舎は男女別に1部屋ずつで滞在したのだが、大部屋に2段ベッドという、まるで学校の合宿のような

もので仲間と夜通しずっと話をしていたりして、とても楽しい経験となった。私の日本の学生に関する英語でのプレゼンテーションも途中詰まることもあったが、必ずと言っていいほど現地の学生のフォローが入り、リラックスしたムードを保ちながら 15 分という時間を話し続ける事が出来た。今回このプレゼンテーションをやりきるにあたり、GMS 学部の必修授業で学んだ話し方・文の組立て方・表現の全ての事が役に立った。このプレゼンテーションにより一層他の学生と話すようになり、とても充実した 2 日間を過ごす事が出来た。



5. 今回の渡航の中でもっとも勉強になった事

今回の渡航で体験した事全てが勉強になったので最も勉強になった事を挙げるのは難しい。現地の団体への個人的にコンタクトするところから、入国の仕方、現地の人とのコミュニケーション、さらにはご飯の食べ方、交通機関の乗り方等、挙げたらきりが無い。しかし、この渡航において一番大事だったのは人との関わりの大切さだったので、これを挙げようと思う。今回予想外の天候の変化のお陰で当初予定していたプランを大幅に修正する羽目になってしまった。そんな状況でもマニラ Y のスタッフの方々は新しいプランを提案してくださり色々な体験をさせて頂いた。この報告書には大々的に挙げていないが、1 日だけフィリピンのテレビのキー局である ABS-CBN というテレビ局に招待してくださり、番組制作プロダクションのオフィスに 1 日だけ放り込まれたという事があった。そこでは

私の学部を考慮してくださり映像編集の班の場所に居させてもらい、お仕事を手伝わせてもらった。その間ずっと会社の方とお話をしていて、仲良くなった結果休日にショッピングモールに連れて行ってくださった、という事もあった。こういったように人との関わりがまた新しい人との縁を作るといったことが多く、また、リーダーシップ養成プログラムでも現地の学生と夜通し話をした経験といい人との関わり大切さを再確認する事ができた。たった2週間という短い期間だったが、1カ月分、いや半年の留学にさえ匹敵するような経験をする事ができたのではないかと思う。予定していたプランから大幅な修正があったのにも関わらず、結果的には良い結果に終わり、非常に有意義で一生に残るような思い出を体験さえたこの2週間を送る事が出来て本当によかった。最後にこの渡航をより良いものにしてくれた、YMCAのスタッフのカーディンさん、リチャードさん、アベットさん、オーリーさん、テルマさん、及びABS-CBNの番組制作プロダクションの3階オフィスの皆さん、リーダーシップトレーニングに参加した大学生の皆さん、中でもLYCEVMのフランキー、ジャック、ジェイド、ジェイと多くのフィリピン人の方に感謝し、この報告を終わろうと思う。





1 つめの画像：ABS-CBN の番組制作スタッフの皆さんと

2 つめの画像：ラグナ州におけるリーダーシップ養成プログラムの大学生とスタッフの皆さんと